

チャ（殺菌剤・殺虫剤）

指針採用農薬一覧表

病害虫名 農薬名(商品名)	炭疽病	網もち病	もち病	輪斑病	新梢枯死症	白紋羽病	赤焼病	カンザワハダニ	チャノコカクモンハマキ	チャハマキ	チャノホソガ	チャノミドリヒメヨコバイ	チャノキイロアザミウマ	クワシロカイガラムシ	チャトゲコナジラミ	ヨモギエダシヤク	チャドクガ	チャネグサレセンチュウ
アミスター20フロアブル	△		△	●	●													
インダーフロアブル	●	△	△															
オンリーワンフロアブル	●	●	●		△													
カスミンボルドー	△			●	●		●											
コサイド3000	●	●	●		●		●											
スクレアフロアブル	△	●	●	●	●													
スコア顆粒水和剤	●	△	△															
ダコニール1000	●	●	●	●	●													
ドイツボルドーA	●	●	●				●											
トリフミン水和剤	●		●															
ナリアWDG	●	△	△	△	△													
パビンコフロアブル	●			△	△													
ファンタジスタ顆粒水和剤	△			●	△													
フリントフロアブル25	△		△	●	●													
フロンサイドSC	●	△	△	●	△													
ベルコート水和剤	△			△	●													
ベルコートフロアブル	△			△	●													
マネージDF	●																	
ミギワ20フロアブル	●																	
ラリー水和剤	●	●	●															
アタックオイル								●						△	●			
アタブロン乳剤									●	●						●		
アドマイヤー水和剤											△	●	●					
アフファーム乳剤									●	●	△		△			△		
アプロードエースフロアブル											△	△		●	●			
アプロード水和剤												●		●	●			

●：指針採用、△：指針には採用していないが登録がある

チャ（殺菌剤・殺虫剤）

指針採用農薬一覧表

病害虫名 農薬名(商品名)	炭疽病	網もち病	もち病	輪斑病	新梢枯死症	白紋羽病	赤焼病	カンザワハダニ	チャノコカクモンハマキ	チャハマキ	チャノホソガ	チャノミドリヒメヨコバイ	チャノキイロアザミウマ	クワシロカイガラムシ	チャトゲコナジラミ	ヨモギエダシヤク	チャドクガ	チャネグサレセンチュウ
ウララDF												●	●		●			
エクシレルSE									●	●	△	△	△			△		
エルサン乳剤									△					●			●	
オルトラン水和剤									△			●	●					
カスケード乳剤									●	●	●	△	●		△	△		
キラップフロアブル											△		●					
グレーシア乳剤									●	△	△	●	●		●	△		
コテツフロアブル								●	△			△	△		●	△		
コルト顆粒水和剤												●	●	△	●			
サブリーナフロアブル									●	●	△							
サムコルフロアブル10									●	●	●					△		
サンマイトフロアブル								●				△	△					
ジェイエース水溶剤									●			●	●					
スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤											●	△	△					
スターマイトフロアブル								●										
スピノエースフロアブル									△	△	●		△			△	△	
スミチオン乳剤									●		●							
ゼンターリ顆粒水和剤									●	●						△		
ダニコングフロアブル								●										
ダニゲッターフロアブル								●							●			
ダニサラバフロアブル								●										
ダニオーテフロアブル								●										
ダントツ水溶剤											●	△	△		●			

●：指針採用、△：指針には採用していないが登録がある

チャ（殺菌剤・殺虫剤）

指針採用農薬一覧表

病害虫名 農薬名(商品名)	炭疽病	網もち病	もち病	輪斑病	新梢枯死症	白紋羽病	赤焼病	カンザワハダニ	チャノコカクモンハマキ	チャハマキ	チャノホソガ	チャノミドリヒメヨコバイ	チャノキイロアザミウマ	クワシロカイガラムシ	チャトゲコナジラミ	ヨモギエダシヤク	チャドクガ	チャネグサレセンチュウ
ディアナSC ラディアントSC									△	△	△		△		●	△		
ディ・トラベックス油剤						●												●
テツパン液剤									●	●	△	△	△			△		
テルスター水和剤								●	●	●	●	△	△			△		
デルフィン顆粒水和剤									●	●						△		
トモノールS								●						△	●			
ノーモルト乳剤											●					●		
ハーベストオイル								●						△	△			
パダンSG水溶剤											●	●	●					
ハチハチフロアブル												△	△		●			
バリアード顆粒水和剤											●	△	△					
バロックフロアブル								●										
ブルートMC														●	●			
フェニックスフロアブル									△	△	△					△	●	
フェニックス顆粒水和剤									●	●	●					△		
ベストガード水溶剤												●	●					
マイトコーネフロアブル								●										
マッチ乳剤									△	△	●		●			△		
ミルベノック乳剤								●			△				△			
モスピラン顆粒水溶剤											●	△	△					
モスピランSL液剤											●							
ラビサンスプレー								●						△	●			
ロディー乳剤									△	△	△	△	△		●	△		
ワークワイド顆粒水和剤									△	△	●	●	●			△		

●：指針採用、△：指針には採用していない

チャ

(1) 炭疽病 *Discula theae-sinensis*

(生態と症状)

- ① 病斑上の分生子が雨滴等で飛散し、新葉の毛茸等から侵入する。
- ② 潜伏期間は14～20日で発病適温は25℃前後、主に二番茶生育期以降に発生し生育期に降雨が続くと多発する。
- ③ 初期病斑は直径0.2～0.5mmのやや隆起した水浸状の緑斑を生じ、やがて不正形で赤褐色の大型病斑となり、分生子層の小黒点を生じ、のちに落葉する。

(防除対策)

- ① 常発地帯では、新植または改植する場合に抵抗性が高い品種を使用する。
- ② 窒素過多を避ける。
- ③ 園地内に日陰が生じないように、周辺の樹木の伐採及び枝管理を適切に行う。
- ④ 発生予察情報、園地の見回りに基づき、適期に薬剤散布等を実施する。
- ⑤ 化学農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。

農薬名			毒性	備考
FRACコード	商品名	一般名		
MO1	コサイド3000	銅水和剤	普	
MO1	ドイツボルドーA	銅水和剤	普	
MO5	ダコニール1000	T P N水和剤	普	
3	オンリーワンフロアブル	テブコナゾール水和剤	普	
3	スコア顆粒水和剤	ジフェノコナゾール水和剤	普	
3	トリフミン水和剤	トリフルミゾール水和剤	普	
3	マネージDF	イミベンコナゾール水和剤	普	
3	ラリー水和剤	マイクロブタニル水和剤	普	
3	インダーフロアブル	フェンブコナゾール水和剤	普	
11 7	ナリアWDG	ピラクロストロピン・ボスカリド水和剤	普	
11A	バビコフロアブル	メチルテトラプロール水和剤	普	
29	フロンサイドSC	フルアジナム水和剤	普	
52	ミギワ20フロアブル	イブフルフェノキン水和剤	普	

チャ

(2) 網もち病、もち病 *Exobasidium vexans*, *E. reticulatum*

(生態と症状)

- ① 病斑上の担子胞子が風等で飛散し、新葉に感染する。網もち病の潜伏期間は20日位で発病適温は22°Cであり、5～6月と9～10月の年2回発生するが9～10月の発生が多い。
もち病の潜伏期間は10日位で発病適温は16～22°C、網もち病と同じく年2回発生するが、5～6月の発生が多い。

(防除対策)

- ① 各茶期の新芽生育初期重点に防除する。
② 常習発生園や中山間部の園では秋季1～2葉展開期の防除も必要である。
③ 気温20°C前後で冷夏、多雨の時に発生しやすいので注意する。

農薬名			毒性	備考
FRACコード	商品名	一般名		
M01	コサイド3000	銅水和剤	普	
M01	ドイツボルドーA	銅水和剤	普	
M05	ダコニール1000	T P N水和剤	普	
3	トリフミン水和剤	トリフルミゾール水和剤	普	もち病
3	ラリー水和剤	マイクロブタニル水和剤	普	
3	オンリーワンフロアブル	テブコナゾール水和剤	普	
11	スクレアフロアブル	マンデストロピン水和剤	普	

(3) 輪斑病 *Pestalotiopsis longiseta*, *Pestalotiopsis theae*

(生態と症状)

- ① 病斑上の分生子が風雨等で飛散し、摘採直後の傷から感染し、潜伏期間は4～5日である。発病適温は25°Cであり、葉の病斑は茶褐色の小斑ができ、次第に拡大して同心円状に濃淡のある褐色病斑を形成し、のちに落葉する。品種「やぶきた」は本病に特に弱いので注意が必要である。6～9月の高温時に発生が多い。

(防除対策)

- ① 傷口からの感染が主であるため、摘採、整枝後できるだけ早く防除を行う。

農薬名			毒性	備考
FRACコード	商品名	一般名		
M05	ダコニール1000	T P N水和剤	普	
11	アミスター20フロアブル	アゾキシストロピン水和剤	普	
11	スクレアフロアブル	マンデストロピン水和剤	普	
11	フリントフロアブル25	トリフロキシストロピン水和剤	普	
11	ファンタジスタ顆粒水和剤	ピリベンカルブ水和剤	普	
24 M01	カスミンボルドー	カスガマイシン・銅水和剤	普	
29	フロンスайдSC	フルアジナム水和剤	普	

チャ

(4) 新梢枯死症 *Pestalotiopsis longiseta*

(生態と症状)

- ① 輪斑病と同じ病原菌によって発病する。病葉や枯死茎に形成された分生子が風雨により飛散し、主に新芽の包葉や不完全葉の離脱した傷口から侵入感染する。

(防除対策)

- ① 萌芽期と2葉開葉期の2回防除を行う。
② 輪斑病の防除を徹底する。

農薬名			毒性	備考
FRACコード	商品名	一般名		
M01	コサイド3000	銅水和剤	普	
M05	ダコニール1000	T P N水和剤	普	
M07	ベルコート水和剤	イミノクタジナルベシル酸塩水和剤	普	
M07	ベルコートフロアブル	イミノクタジナルベシル酸塩水和剤	普	
24 M01	カスミンボルドー	カスガマイシン・銅水和剤	普	
11	アミスター20フロアブル	アゾキシストロピン水和剤	普	
11	スクレアフロアブル	マンデストロピン水和剤	普	
11	フリントフロアブル25	トリフロキシストロピン水和剤	普	

(5) 白紋羽病 *Rosellinia necatrix*

(生態と症状)

- ① 多犯性の糸状菌による土壌病害で土壌中の前作物、雑木等の罹病根残さから、新植された茶樹の根部に菌糸で感染する。
保毒した粗大有機物が原因となることもある。発病～枯死までには数ヶ月から数年かかる場合もあり、樹勢が徐々に低下し、葉が黄色に脱色し、株全体が枯死する。

(防除対策)

- ① 被害株とその隣接株を掘り取り、跡地を土壌消毒する。

農薬名			毒性	備考
FRACコード	商品名	一般名		
8F 8A	ディ・トラベックス油剤	メチルイソチオシアネート・D-D油剤	劇	圃場を耕起・整地した後、所定量を深さ約12～15cmに注入し、直ちに覆土・鎮圧する。

(6) 赤焼病 *Pseudomonas syringae pv. theae*

(生態と症状)

- ① 細菌性病害であり、葉及び枝に発病し、早春期と晩秋期に発生するが早春期の発生が多い。

(防除対策)

- ① 常発園では春秋の強風雨後に薬剤防除する。

農薬名			毒性	備考
FRACコード	商品名	一般名		
M01	コサイド3000	銅水和剤	普	
M01	ドイツボルドーA	銅水和剤	普	
24 M01	カスミンボルドー	カスガマイシン・銅水和剤	普	

チャ

(7) カンザワハダニ

(生態と症状)

- ① 成虫の体長は0.3～0.4mmで、雌成虫で越冬し、3月中旬頃から発生する。
- ② 葉の裏面で活動し、新芽への加害が問題となる。
- ③ 茶園での発生は初夏（5～6月）と秋（9～10月）に多く、成夏には少ない。

(防除対策)

- ① 園地内及びその周辺の下草及び雑草の管理を行う。
- ② 発生予察情報を参考に、園地の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。
- ③ 多発した園地では、秋整枝後の休眠前又は休眠明けに薬剤散布等を実施する。
- ④ 摘採前に発生が多い場合には、摘採を早めて被害の軽減に努める。
- ⑤ 土着天敵への影響が小さい薬剤を選択し、土着天敵を保護する。
- ⑥ 生物農薬を活用する。
- ⑦ 薬液が付着しにくい葉裏に寄生するため、薬剤散布を行う場合には、薬液が葉裏及び裾部に十分付着するよう、丁寧散布する。
- ⑧ 化学農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。

農薬名			毒性	備考
IRACコード	商品名	一般名		
3A	テルスター水和剤	ピフェントリン水和剤	普	
6	ミルベノック乳剤	ミルベメクチン乳剤	普	
10B	パロックフロアブル	エトキサゾール水和剤	普	
13	コテツフロアブル	クロルフェナビル水和剤	劇	
20D	マイトコーネフロアブル	ピフェナゼート水和剤	普	
21A	サンマイトフロアブル	ピリダベン水和剤	劇	
23	ダニゲッターフロアブル	スピロメシフェン水和剤	普	
25A	スターマイトフロアブル	シエノピラフェン水和剤	普	
25A	ダニサラバフロアブル	シフルメトフェン水和剤	普	
25B	ダニコングフロアブル	ビフルブミド水和剤	普	
33	ダニオーテフロアブル	アシノナビル水和剤	普	
UNM	アタックオイル	マシン油乳剤	普	
UNM	ハーベストオイル	マシン油乳剤	普	
UNM	ラビサンスプレー	マシン油乳剤	普	ハダニ類
UNM	トモノールS	マシン油乳剤	普	

チャ

(8) チャノコカクモンハマキ・チャハマキ

(生態と症状)

- ① 両種ともほぼ同様の発生消長で年4回程度発生し、夏季に発生が増加する。
- ② チャノコカクモンハマキは新葉を、チャハマキは成葉を食害することが多い。
- ③ チャノコカクモンハマキは茶園全般に分散発生し、チャハマキは部分的に発生、被害がでることが多い。

(防除対策)

- ① 地域全体で広域に交信かく乱剤を使用する。
- ② フェロモントラップによる前世代の成虫誘殺状況の把握、発生予察情報、園地の見回り等に基づき、適期に薬剤散布を実施する。
- ③ 土着天敵への影響が小さい薬剤を選択し、土着天敵を保護する。
- ④ 生物農業を活用する。
- ⑤ 化学農業を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。

農薬名			毒性	備考
IRACコード	商品名	一般名		
1B	ジェイエース水溶剤	アセフェート水溶剤	普	チャノコカクモンハマキ
1B	スミチオン乳剤	ME P乳剤	普	コカクモンハマキ
3A	テルスター水和剤	ピフェントリン水和剤	普	
6	アフファーム乳剤	エマメクチン安息香酸塩乳剤	普	
11A	ゼンタール顆粒水和剤	B T水和剤	-	
11A	サブリーナフロアブル	B T水和剤	-	
11A	デルフィン顆粒水和剤	B T水和剤	-	チャハマキは1000倍
15	アタブロン乳剤	クロルフルアズロン乳剤	普	
15	カスケード乳剤	フルフェノクスロン乳剤	普	
28	エクシレルSE	シアントラニリプロール水和剤	普	
28	サムコルフロアブル10	クロラントラニリプロール水和剤	普	
28	テッパン液剤	シクラニリプロール液剤	普	
28	フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド水和剤	普	
30	グレーシア乳剤	フルキサメタミド乳剤	普	

チャ

(9) チャノホソガ

(生態と症状)

- ① 蛹で越冬し、3月下旬頃から成虫が発生し始め、年間6～8回発生する。
- ② 三角巻葉内にした幼虫のフンにより、製茶品質が著しく低下する。

(防除対策)

- ① 地域における本指定害虫の発生時期を考慮し、早晚性の異なる品種の利用、整せん枝等を活用した作期移動等の耕種的手法を検討する。
- ② フェロモントラップによる前世代の成虫誘殺状況の把握、発生予察情報、園地の見回り等に基づき、適期に薬剤散布を実施する。
- ③ 新葉や新芽の裏側をよく観察し、水滴状の卵が確認された場合には、薬剤の性質も考慮した防除を実施する。ただし、産卵は新葉および新芽に行われ、幼虫は若葉を食害することから、摘採が近い場合には、摘採により除去することも可能である。
- ④ 生物農業を活用する。
- ⑤ 摘採間近に三角巻葉等の発生が確認され始めた場合には、荒茶の中に虫糞が混入しないよう、できるだけ早く摘採する。

農薬名			毒性	備考
IRACコード	商品名	一般名		
1B	スミチオン乳剤	ME P乳剤	普	
3A	テルスター水和剤	ビフェントリン水和剤	普	
4A	スタークル顆粒水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤	ジノテフラン水溶剤	普	
4A	ダントツ水溶剤	クロチアニジン水溶剤	普	
4A	バリアード顆粒水和剤	チアクロプリド水和剤	劇	
4A	モスピラン顆粒水溶剤	アセタミプリド水溶剤	劇	
4A	モスピランSL液剤	アセタミプリド液剤	劇	
4A 5	ワークワイド顆粒水和剤	イミダクロプリド・スピノサド水和剤	劇	
5	スピノエースフロアブル	スピノサド水和剤	普	
14	バダンS G水溶剤	カルタップ水溶剤	劇	
15	カスケード乳剤	フルフェノクスロン乳剤	普	
15	マッチ乳剤	ルフェヌロン乳剤	普	
15	ノーモルト乳剤	テフルベンズロン乳剤	普	
28	サムコルフロアブル10	クロラントラニリプロール水和剤	普	
28	フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド水和剤	普	

チャ

(10) チャノミドリヒメヨコバイ

(生態と症状)

- ① 成虫で越冬し、二番茶期以降で被害が目立つ。
- ② 年発生回数は地域差が大きく5～8回程度で11月まで世代を繰り返す。
- ③ 成虫、幼虫とも新梢の葉や茎を吸汁し、葉先の褐変や落葉することもある。

(防除対策)

- ① 新芽の茎に産卵するため、摘採、整せん枝、すそ刈り等により密度低減を図る。
- ② 発生予察情報、圃地の見回り等に基づき、新芽生育期の発生状況を把握し、防除適期である萌芽期から開葉期までに薬剤散布等を実施する。
- ③ 卵を上位2または3葉間の節間に多く産むことから、摘採により除去する。
- ④ 化学農業を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。

農薬名			毒性	備考
IRACコード	商品名	一般名		
1B	オルトラン水和剤	アセフェート水和剤	普	
1B	ジェイエース水溶剤	アセフェート水溶剤	普	
4A	アドマイヤー水和剤	イミダクロプリド水和剤	劇	
4A	ベストガード水溶剤	ニテンピラム水溶剤	普	
4A 5	ワークワイド顆粒水和剤	イミダクロプリド・スピノサド水和剤	劇	
9B	コルト顆粒水和剤	ピリフルキナゾン水和剤	普	
14	パダンS G水溶剤	カルタップ水溶剤	劇	
16	アブロード水和剤	ブプロフェジン水和剤	普	幼虫
29	ウララDF	フロニカミド水和剤	普	
30	グレーシア乳剤	フルキサメタミド乳剤	普	

チャ

(11) チャノキイロアザミウマ（スリップス類）

(生態と症状)

- ① 成虫で越冬し、4～10月まで年7～8回世代を繰り返す。
- ② 夏季の1世代日数は15～20日であり、萌芽期から新葉展開期に主として加害し、芽の伸長停止や傷葉となる。
- ③ 茶園の中で増殖するほか、園外からもたえず飛来侵入する。

(防除対策)

- ① 雑草等でも繁殖するため、園地内およびその周辺の下草や雑草の管理を行う。
- ② 発生予察情報を参考に、園地の見回り等により新芽生育期の発生状況を把握し、萌芽期から開葉期までにおける防除適期を判断する。
- ③ 薬剤抵抗性が発達しやすいため、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。

農薬名			毒性	備考
IRACコード	商品名	一般名		
1B	オルトラン水和剤	アセフェート水和剤	普	
1B	ジェイエース水溶剤	アセフェート水溶剤	普	
2B	キラップフロアブル	エチプロール水和剤	普	
4A	アドマイヤー水和剤	イミダクロプリド水和剤	劇	
4A	ベストガード水溶剤	ニテンピラム水溶剤	普	
4A 5	ワークワイド顆粒水和剤	イミダクロプリド・スピノサド水和剤	劇	
9B	コルト顆粒水和剤	ピリフルキナゾン水和剤	普	
14	バダンS G水溶剤	カルタップ水溶剤	劇	
15	カスケード乳剤	フルフェノクスロン乳剤	普	
15	マッチ乳剤	ルフェヌロン乳剤	普	
29	ウララDF	フロニカミド水和剤	普	
30	グレーシア乳剤	フルキサメタミド乳剤	普	

(12) クワシロカイガラムシ

(生態と症状)

- ① 雌成虫で越冬し、年3回程度発生する。
- ② ふ化幼虫は歩行又は風により分散移動し、枝に定着吸汁加害する。
- ③ 雄まゆがかたまっても白く見えるくらいに多発すると、新芽が伸びず、葉が黄化、落葉し、最後には枝が枯死する。

(防除対策)

- ① 常発地帯では、新植または改植する場合に抵抗性が高い品種を使用する。
- ② 中切り更新することにより、寄生部を除去するとともに樹勢回復を図る。
- ③ 寄生枝の直接観察、粘着シートまたは発生予察情報等により、防除適期である幼虫のふ化最盛期を把握し、適期の薬剤散布等を実施する。
- ④ 薬剤散布を行う場合には、幼虫のふ化を確認した後、薬液が樹冠下の枝条に十分付着するよう、丁寧に散布する。
- ⑤ 土着天敵に影響の少ない薬剤を選択し、土着天敵の活動を保護する。

農薬名			毒性	備考
IRACコード	商品名	一般名		
1B	エルサン乳剤	P A P乳剤	劇	
7C	ブルートMC	ピリプロキシフェンマイクロカプセル剤	普	
16	アブロード水和剤	ブプロフェジン水和剤	普	若齢幼虫
21A 16	アブロードエースフロアブル	フェンピロキシメート・ブプロフェジン水和剤	普	カイガラムシ類

チャ

(13) チャトゲコナジラミ

(生態と症状)

- ① 年に3～4回発生する。
- ② 主に3齢、4齢幼虫で越冬した個体が翌春に成虫となる。
- ③ 幼虫がチャの葉裏に寄生し、幼虫が排泄した多量の甘露がすす病を誘発し、樹勢を低下させる。

(防除対策)

- ① 苗を導入する際には、寄生苗を持ち込まないよう、本指定害虫の寄生の有無を確認する。
- ② 苗の生産を行う場合は、採穂園の防除を徹底するとともに、薬剤による挿し穂の浸漬処理を行う。
- ③ 育苗は防虫ネットで被覆した施設内や無かん水挿し木法などで行い、出荷の際は薬剤散布を徹底するとともに、箱に密閉する。
- ④ 冬季に、気門封鎖剤を必要に応じて複数回散布する（冬季の散布は赤焼病の発生を助長することがあることに留意する）。
- ⑤ 発生状況に対応した薬剤散布等を行う。
- ⑥ 深刈りせん枝、すそ刈り等を活用し、寄生葉の除去を行うとともに、薬剤による防除効果の向上を図る。なお、時期により刈り落とした枝から成虫が羽化することに留意し、必要に応じて刈り落とした枝を、土中に埋める等により、適切に処分する。
- ⑦ 土着天敵に影響の少ない薬剤を選択し、土着天敵の活動を保護する。
- ⑧ 薬剤散布を行う場合には、本指定害虫の寄生部位である葉裏に薬液が十分付着するよう、丁寧に散布する。また、すそ重点散布法も検討する。

農薬名			毒性	備考
IRACコード	商品名	一般名		
3A	ロディー乳剤	フェンプロバトリン乳剤	劇	
4A	ダントツ水溶剤	クロチアニジン水溶剤	普	
5	ディアナSC ラディアントSC	スピネトラム水和剤	普	
7C	ブルートMC	ピリプロキシフェンマイクロカプセル剤	普	
9B	コルト顆粒水和剤	ピリフルキナゾン水和剤	普	
13	コテツフロアブル	クロルフェナビル水和剤	劇	
16	アブロード水和剤	ブプロフェジン水和剤	普	
21A	ハチハチフロアブル	トルフェンピラド水和剤	劇	
21A 16	アブロードエースフロアブル	フェンピロキシメート・ブプロフェジン水和剤	普	
23	ダニゲッターフロアブル	スピロメシフェン水和剤	普	
29	ウララDF	フロニカミド水和剤	普	
30	グレーシア乳剤	フルキサメタミド乳剤	普	
UNM	ラビサンスプレー	マシン油乳剤	普	
UNM	アタックオイル	マシン油乳剤	普	
UNM	トモノールS	マシン油乳剤	普	

チャ

(14) ヨモギエダシヤク

(生態と症状)

- ① 蛹で越冬し、年3回程度発生する。ふ化幼虫は糸をはいて下垂し、風等で移動、分散する。

(防除対策)

- ① 4月、6月、8月頃の幼虫発生期の防除に重点をおく。
 ② 老齢幼虫には薬剤効果が劣るので、体長2cmまでに防除を徹底する。
 ③ 株内に潜むことが多いため散布量を多くする。

農薬名			毒性	備考
IRACコード	商品名	一般名		
15	アタブロン乳剤	クロルフルアズロン乳剤	普	
15	ノーモルト乳剤	テフルベンズロン乳剤	普	

(15) チャドクガ

(生態と症状)

- ① 卵で越冬し、成虫は6月中下旬と9月中下旬位の年2回発生する。ふ化幼虫は糸をはいて下垂し、風等で移動、分散する。

(防除対策)

- ① 分散前の幼虫ふ化期～弱齢幼虫期の防除に重点を置く。
 ② 幼虫分散前の捕殺も有効である。

農薬名			毒性	備考
IRACコード	商品名	一般名		
1B	エルサン乳剤	P A P乳剤	劇	
28	フェニックスフロアブル	フルベンジアミド水和剤	普	

(16) チャネグサレセンチュウ

(生態と症状)

- ① 茶樹に寄生加害する線虫は数種あるが、チャネグサレセンチュウは最も一般的に見られるもので、被害も大きい。

(防除対策)

- ① 幼木の定植前に土壌燻蒸剤の処理を必ず行う。

農薬名			毒性	備考
IRACコード	商品名	一般名		
8F 8A	ディ・トラベックス油剤	メチルイソチオシアネート・D-D油剤	劇	センチュウ類登録、圃場を耕起・整地した後、所定量を深さ約12～15cmに注入し、直ちに覆土・鎮圧する。薬剤処理7～14日後にガス抜き作業を行う。